

出願人代理人 小林 浩	
あて名 〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目8番7号 福岡ビル9階 阿部・井履・片山法律事務所	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>受領致しました</p> <p>2001. 5. 21</p> <p>特許庁 井履・片山・阿部 様へ</p> </div>	

PCT 13条
(法第13条)
(PCT規則66)

20.05.03

出願人又は代理人 書類番号 P02-0149PCT	上記発送日から 2 月以内
国際出願番号 PCT/JPO2/13781	優先日 (日.月.年) 27. 12. 02
国際特許分類 (IPC) Int. Cl. A61K38/00, 45/00, A61P3/04, 3/06	28. 12. 01
出願人 (氏名又は名称) 武田薬品工業株式会社	

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。

- I ☒ 見解の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☒ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- IV ☐ 発明の単一性の欠如
- V ☒ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文獻及び説明
- VI ☐ ある種の引用文獻
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

出願人は、この見解書に答覆することが求められる。

上記答覆期間を参照すること。この答覆期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように?

法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要場合には、補正書を提出する。補正書の格式及び書附については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.402を参照すること。審査官の非公式の連絡については、PCT規則66.5を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.20の規定により 28. 04. 04 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区麹町三丁目4番3号	特許庁審査官 (相席のある職員) 岩下 直人	4 C 9841
電話番号 03-3581-1101 内線 3451		

様式PCT/IPEA/408 (改訂) (1998年7月)

(添付用紙の注意書きを参照)

見解書

国際出願番号 PCT/JPO2/13

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に提出された代替用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- | | |
|---|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書 第 第 _____ ページ _____ | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書 第 第 _____ ページ _____ | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 第 第 _____ 項 _____ | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 第 第 _____ 項 _____ | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 第 第 _____ 項 _____ | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面 第 第 _____ ページ/図 _____ | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面 第 第 _____ ページ/図 _____ | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 第 第 _____ ページ _____ | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 第 第 _____ ページ _____ | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語 |
| <input type="checkbox"/> PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語 |
| <input type="checkbox"/> 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語 |

3. この国際出願は、スクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> この国際出願に含まれる書類による配列表 |
| <input type="checkbox"/> この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表 |
| <input type="checkbox"/> 出願後に、この国際予備審査 (または調査) 機関に提出された書類による配列表 |
| <input type="checkbox"/> 出願後に、この国際予備審査 (または調査) 機関に提出された磁気ディスクによる配列表 |
| <input type="checkbox"/> 書面の提出があった |
| <input type="checkbox"/> 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述があった。 |

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 明細書 第 第 _____ ページ _____ | |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 第 第 _____ 項 _____ | |
| <input type="checkbox"/> 図面 図面の第 _____ ページ/図 _____ | |

5. この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められ、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

様式PCT/IPEA/408 (第1欄) (1998年7月)

国際出願番号PCT/JPO2/13781

見解書

新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の作成

1. 次に關して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲2.2

理由：

☒ この国際出願又は請求の範囲2.2は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。
請求の範囲2.2は手術または治療による人体の処置方法を含むものであるもので、PCT第34条(4)(a)(i)及びPCT規則67.1(iv)の規定により、この国際予備審査機関が予備審査することを要しない対象に係るものである。

☐ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲の記載が、不明瞭であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。
の

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☒ 請求の範囲2.2について、国際調査報告が作成されていない。

2. スクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、見解書を作成することができない。

☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

☐ 磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

様式PCT/1PEA/408（第III欄）（1998年7月）

国際出願番号PCT/JPO2/137

見解書

新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、文献及び説明

1. 見解

新規性（N）

請求の範囲2.1
請求の範囲1-20, 23

進歩性（I S）

請求の範囲1-21, 23

産業上の利用可能性（I A）

請求の範囲1-21, 23

2. 文献及び説明

国際調査報告において以下の文献が示された。
文献1. WO 01/98494 A1（TAKEDA CHEMICAL INDUSTRIES, LT
文献2. JP 9-121865 A（武田薬品工業株式会社）

文献1には、請求の範囲に記載の配列番号：4, 16のアミノ酸配列と同一アミノ酸配列が記載されており（文献1配列表配列番号4, 16を参照）、また請求の範囲に記載の配列番号：149のアミノ酸配列と1つのアミノ酸残基となるアミノ酸配列についても記載されている（文献1配列表配列番号98を参照）。そして、上記ポリペプチドがGPR8を介して作用し、肥満症などの治療に使用される旨についても記載されている。
請求の範囲1-20, 23に記載の発明は、新規性及び進歩性を有しない

文献2には、請求の範囲に記載の配列番号：126, 138, 144のアミノ酸配列と部分的に同一のアミノ酸配列が記載されており（文献1 図1及び図照）、また、これらのポリペプチドを使用してG蛋白質共役型レセプターにアゴニストやアンタゴニストのスクリーニングを行う旨についても記載される。
文献1, 文献2に記載のG蛋白質共役型レセプター蛋白又は部分ペプチドで、肥満症などの予防・治療に使用されるアゴニストやアンタゴニストのスクリーニングを行うことは、当業者に自明の事項である。また、請求の範囲に記載とすることにより格別の効果が生じるものとも認められない。
請求の範囲2.1に記載の発明は進歩性を有しない。

請求の範囲1-21, 23に記載の発明は産業上の利用可能性を有する。

様式PCT/1PEA/408（第V欄）（1998年7月）

強出書類の様式及び作成要領について

答弁書及び手続補正書は、特許協力条約に基づく国
規則第31条（様式15）に従って作成して下さい。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

1 日本に於ける「政治小説」の歴史を、大體に三つの時期の発展を基として整理して見よう。
 2 第一の時期は、明治の初期から明治の中期に於けるものである。この時期は、政治小説の歴史に於ける最も重要な時期である。この時期に於ける政治小説の歴史は、大體に三つの時期に分けられる。第一の時期は、明治の初期から明治の中期に於けるものである。この時期に於ける政治小説の歴史は、大體に三つの時期に分けられる。第二の時期は、明治の中期から明治の後期に於けるものである。この時期に於ける政治小説の歴史は、大體に三つの時期に分けられる。第三の時期は、明治の後期から明治の末期に於けるものである。この時期に於ける政治小説の歴史は、大體に三つの時期に分けられる。

[illegible][illegible][illegible][illegible]